

鹿児島県の生物多様性を

外来種から守ろう



鹿児島県外来種パンフレット



外来種から鹿児島県の生物多様性を守るために...

- 外来種に関する適切な認識を持ちましょう。外来種の中には、長い時間をかけて人の生活や文化に浸透・共存してきたり、社会経済活動の中で積極的役割を果たしてきた種も多くあります。一方、人に持ち込まれることにより、様々な問題を発生させる侵略的な種も存在しています。侵略性を持つ外来種は全体のうち一部ですが、侵略性のある外来種については、導入の防止、適正な管理や防除が必要です。
- 県民一人一人が、本県の生態系等に悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」、飼養・栽培している外来種を適切に管理し「捨てない」、既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」の外来種被害予防三原則を遵守しましょう。
- 外来種は全て、人間によって意図的又は非意図的に自然分布域外に持ち込まれた生物であり、侵略的外来種により被害をうける在来種同様、人間により連れてこられ、その後、生態系や人の生活環境への被害を防止するためにやむを得ず防除される侵略的外来種もまた「被害者」です。外来種問題の発端の多くは、安易に外来種を持ち込んだ無責任な人間によるものであることを理解し、自らが新たな外来種問題の原因者とならないよう十分気をつけましょう。
- 県内に生息する外来種や侵入のおそれの高い外来種についての知識を広く持ち、日常生活の中でも外来種の侵入を警戒しましょう。外来種を発見した場合には、行政機関等に速やかに連絡しましょう。
- 鹿児島県には多くの島々があり、多くの島には、固有種、希少種が生息するなど、本土とは異なる独特な生態系が存在します。このため、県本土ではごく普通に生息している動物であっても、島に持ち込まれることにより、島の生態系に影響を及ぼす侵略的外来種となってしまう場合があります。この本県特有の事情を十分に理解し、県本土で在来種であったとしても、安易に島へ動植物を持ち込むことのないようにしましょう。

特定外来生物とは

- 外来生物法に基づき、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある外来生物（海外起源の外来種）の中から指定されます。
- 2017年3月現在、134種類が特定外来生物に指定されています。鹿児島県では、そのうち22種類の侵入が確認されています。
- 特定外来生物の飼育、栽培または、生きたまま移動せさせることは原則できません。特定外来生物を捕まえた場合、その場所の管理者や行政機関に相談してください。

鹿児島県に侵入が確認されている特定外来生物

分類	種名(和名)	分類	種名(和名)
哺乳類	フイリマングース	無脊椎動物	ゴケグモ類(セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ)
哺乳類	アライグマ	無脊椎動物	ニューギニアヤリガタリクスムシ
鳥類	ガビチョウ	維管束植物	ポタンウキクサ
鳥類	ソウシチョウ	維管束植物	オオフサモ
爬虫類	カミツキガメ	維管束植物	アゾラ・クリスタータ
両生類	ウシガエル	維管束植物	オオキンケイギク
両生類	シロアゴガエル	維管束植物	ナルトサワギク
魚類	ブルーギル	維管束植物	アレチウリ
魚類	オオクチバス	維管束植物	スバルティナ属
魚類	カダヤシ	維管束植物	ナガエツルノゲイトウ
魚類	チャネルキャットフィッシュ	維管束植物	ウスゲオオバナミズキンバイ



フイリマングース



オオキンケイギク

外来種を見つけたら!

外来種を見つけた! 外来種の痕跡があった! 外来種の被害を受けた! などがありましたら、鹿児島県環境林務部自然保護課までご連絡を。

鹿児島県環境林務部自然保護課
 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号(行政庁舎13階)
 Tel: 099-286-2616 Fax: 099-286-5546
 mail: yasei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県 特定外来生物の侵入状況

種名	侵入状況
ニホンイタチ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ノネコ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
フイリマングース	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ノヤギ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
コイ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アライグマ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ガビチョウ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ソウシチョウ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
カミツキガメ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ウシガエル	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
シロアゴガエル	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ブルーギル	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
オオクチバス	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
カダヤシ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
チャネルキャットフィッシュ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ゴケグモ類	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ニューギニアヤリガタリクスムシ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ポタンウキクサ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
オオフサモ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アゾラ・クリスタータ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
オオキンケイギク	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ナルトサワギク	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アレチウリ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
スバルティナ属	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ナガエツルノゲイトウ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ウスゲオオバナミズキンバイ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。

鹿児島県 特定外来生物の侵入状況

種名	侵入状況
インドクジャク	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アフリカマイマイ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
センダングサ類	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アメリカハマグルマ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アブラギリ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ノイヌ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ミキマキ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
モリマオウ類	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
アカギ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
グッピー	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ヤンバルトサカヤスデ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
オオオナモミ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
シナタシススメガヤ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
メリケンムグラ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
ウスゲオオバナミズキンバイ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
セイタカアワダチソウ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。
メリケントキンソウ	鹿児島県全域に侵入が確認されています。



ライオン、ウシガエル、カミツキガメ

鹿児島県の代表的な外来種

現在、鹿児島県で確認されている外来種です。フィリマングース、アライグマなどの目撃情報収集している種や、ノネコ、モウソウチクなどの適正な管理を求める種など、様々なタイプの外来種がいます。

ノヤギ

ウシ科

【国外】 【緊急防除種】



侵入分布域 黒島、屋久島、口永良部島、トカラ列島、奄美大島、加計呂麻島

主な特徴 体重オス成体27~45kg、メス成体25~35kg。特徴的なヒゲと角を持つ。

影響 食害による植生の破壊、土砂崩壊。

ソウシショウ

チメドリ科

【国外】 【緊急防除種、特定外来生物】



侵入分布域 離島を除く県内全域

主な特徴 全長約15cm。体色は暗緑色。眉斑から頬は黄色。胸は濃いオレンジ色。嘴は赤色。

影響 ウグイスの繁殖成功率の減少。

オキナワキノボリトカゲ

アガマ科

【県内】 【緊急防除種】



侵入分布域 指宿市、屋久島

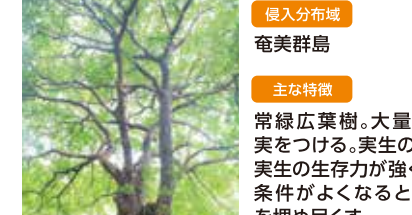
主な特徴 全長20~30cm。オスの成体は全身縞みを帯びる。メス成体や幼体では縞みは弱い。

影響 在来昆虫類の捕食。在来トカゲ類との競合。

アカギ

トウダイグサ科

【国内】 【緊急防除種】



侵入分布域 奄美群島


主な特徴 常緑広葉樹。大量の果実をつける。実生の数と実生の生存力が強く、光条件がよくなくと森林を埋め尽くす。

影響 在来木本類との競合。

ホテイアオイ

ミズアオイ科

【国外】 【緊急防除種】



侵入分布域 離島を含む県内全域

主な特徴 常緑多年性の浮遊植物。匍匐（ほふく）する茎を伸ばし、子株を次々につくり大群生する。

影響 在来水生植物やイネとの競合。通水障害。漁業への障害。

ノネコ

ネコ科

【国外】 【重要防除種】



侵入分布域 県本土各地、奄美大島、徳之島

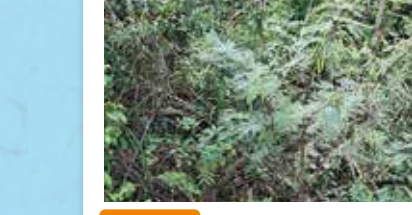
主な特徴 体重2.5~6kg。イエネコと同種であり、飼い猫が捨てられて山野で野生化したものがノネコと呼ばれる。

影響 アマミノクロウサギなどの固有種・希少種を捕食。

ギンネム

マメ科

【国外】 【一般防除種】



侵入分布域 奄美大島

主な特徴 常緑広葉樹。日当たりのよい道端や原野、林縁に生育する。種子繁殖、萌芽の再生から成長が速く、森林をつくる。その後遷移が進みにくい。

影響 在来植物を駆逐。

アライグマ

アライグマ科

【国外】 【定着予防種、特定外来生物】



侵入分布域 始良市、霧島市、垂水市

主な特徴 頭頸長40~60cm。尾長20~40cm。尾は長く縞模様がある。目を覆うように黒い帯がある。

影響 農作物の食害、養鶏場、養魚場での被害。在来動物の捕食。真珠による健康被害。

カミツキガメ

カミツキガメ科

【国外】 【定着予防種、特定外来生物】



侵入分布域 奄美大島(龍郷町)

主な特徴 背中には3本の隆条。後端はギザギザ。腹甲は小さい。

影響 在来水生動物の捕食。在来カメ類の駆逐。人への咬傷。

ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)

ヌマガメ科

【国外】 【緊急防除種】



侵入分布域 県本土各地、種子島、屋久島、奄美群島

主な特徴 背甲は緑褐色で、各甲板には黄色、黒、緑色などの模様が入る。側頭部に赤い斑紋が入る。

影響 水生動物の捕食。在来カメ類の駆逐。

ホオゴロヤモリ

ヤモリ科

【国外】 【緊急防除種】



侵入分布域 奄美群島

主な特徴 体長90~130mm。指下板(ひだ状のうろこ)が二分し。指の下面のほぼ全域を覆う。

影響 在来ヤモリ類との競合。在来昆虫類の捕食。

ブルーギル

サンフィッシュ科

【国外】 【緊急防除種、特定外来生物】



侵入分布域 県本土各地

主な特徴 全長約25cm。体高は高い。鰓蓋後端の突出部に黒斑がある。

影響 在来魚類や水生植物の捕食。

ガビチョウ

チメドリ科

【国外】 【重要防除種、特定外来生物】



侵入分布域 霧島山系、栗野岳、南さつま市、出水市

主な特徴 全長20~25cm。全体に黄褐色で、目のまわりとその後方の帯は白い。

影響 在来鳥類の減少のおそれがある。

ウシガエル

アカガエル科

【国外】 【重要防除種、特定外来生物】



侵入分布域 県本土各地、奄美大島、与路島、徳之島

主な特徴 全長111~183mm。大型でみずかきが良く発達している。「フオー、フオー」と鳴く。

影響 昆虫類、両生類など餌となる小型脊椎動物の捕食。

カダヤシ

カダヤシ科

【国外】 【重要防除種、特定外来生物】



侵入分布域 離島を含む県内各地

主な特徴 体長はオス3cm、メス5cm。メダカに似るが、体がもっと青っぽく尾びれが丸い。

影響 在来魚類(ミナメダカ)との競合。

コイ

コイ科

【国内】 【産業管理種】



侵入分布域 離島を含む県内各地

主な特徴 全長約70cmの淡水魚。口には2対4本のヒゲがある。

影響 在来淡水生物の捕食。


〈 語句の説明 〉

- 特定外来生物：外来生物法に基づき、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれのある外来生物の中から指定されている種。
- 検疫有害動物：植物防疫法で、まん延した場合に有用な植物に損害を与えるおそれがある有害動物又は有害植物として指定されている種。
- 緊急防除種：本県に大きな影響を及ぼしており、緊急に防除対策が必要な種。
- 重要防除種：本県に大きな影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。
- 一般防除種：本県に影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。
- 重点密発種：本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県に定着しており、遺棄・導入・逸出防止等のための重点的な普及啓発が必要な種。
- 定着予防種：本県に影響を及ぼす外来種のうち、本県においてはまだ定着が確認されておらず、導入の予防や水際での監視、発見した場合の早期防除等が必要な種。
- 産業管理種：本県に影響を及ぼす外来種のうち、産業利用が行われている種。利用時の逸出等防止のための適正な管理に重点を置いた普及啓発を行う種。
- 【国外】：国外由来外来種 (国外に自然分布域があり、自然分布域外である鹿児島県内に導入された種)
- 【国内】：国内由来外来種 (国内に自然分布域があり、自然分布域外である鹿児島県内に導入された種)
- 【県内】：県内由来外来種 (県内に自然分布域があるが、県内の自然分布域外地域に導入された種)

オオクチバス(ブラックバス)

サンフィッシュ科

【国外】 【緊急防除種、特定外来生物】



侵入分布域 県本土各地、種子島

主な特徴 全長30~50cm。上顎の後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。

影響 様々な在来生物の捕食。

コブハクチョウ

カモ科

【国外】 【緊急防除種】



侵入分布域 川内川、蘭牟田池、住吉池(始良市)

主な特徴 体長約150cm。全身が白く、くちばしは主に橙赤色で、額前には黒いコブがある。

影響 湖沼の生態系を大きく変える。

ハイロゴケグモ

ヒメグモ科

【国外】 【緊急防除種、特定外来生物】



侵入分布域 鹿児島市、霧島市、志布志市、西之表市、奄美大島、霧島市、徳之島、沖永良部島、与路島

主な特徴 オスの体長は6~8mm、メスの体長は12~16mm。白から黒まで体色には変異がある。

影響 神経毒を持ち、咬傷被害のおそれがある。

ジルテラピア

カウズメ科

【国外】 【重要防除種】



侵入分布域 天降川、池田湖、奄美大島、徳之島、沖永良部島

主な特徴 3~4年魚で、オス800~1,000g、メス400~500g、体長30cm以上。

影響 本種が個占となり、生物多様性を喪失。

ヤシオオオサゾウムシ

オサゾウムシ科

【国外】 【重要防除種】



侵入分布域 県本土各地

主な特徴 体長22~35mmの甲虫。頭部は赤褐色で複眼は黒色、長い物を持つ。

影響 ヤシを食害し、枯死させる。

ナガエツルノゲイトウ

ヒユ科

【国外】 【重要防除種、特定外来生物】



侵入分布域 鹿児島市、奄美大島


主な特徴 多年生草本。湿った土地に生え、基部は根に囲い多く根分かれする。茎を伸ばし、節から発芽し、1m以上になる。茎切片で繁殖し急速に増殖する。

影響 在来水生植物との競合。通水障害。

本県の外来種の詳しい情報については!

鹿児島県の外来種の詳しい情報については、鹿児島県のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/alienspecies-list.html>




今後侵入する可能性のある外来種

今後、鹿児島県に侵入のおそれのある外来種です。「入れない」、「捨てない」、「拡げない」の外来種被害予防三原則を守り、県内への侵入を防止しましょう。また、これらの外来種を見つけたら、県自然保護課へ連絡してください。

ツマアカスズメバチ 特定外来生物

スズメバチ科




考えられる侵入方法 園芸栽培種の輸入品に紛れて侵入。

主な特徴 女王は約30mm。オスは約24mm。ワーカーは約20mmの中型のスズメバチ。体は全体に黒っぽく、腹部の先端が赤褐色である。

影響 ミツバチを捕食するため、養蜂業への被害が考えられる。在来スズメバチ類との競合。

ヒアリ 特定外来生物

アリ科



考えられる侵入方法 船舶に紛れて侵入するおそれがある。

主な特徴 ワーカーは多型で、体長2.5mm~6mm。体色は赤褐色。腹部が暗色。

影響 在来アリ類との競合や刺傷による人の健康被害のおそれがある。

グリーンアノール 特定外来生物

イグアナ科



考えられる侵入方法 船荷、観葉植物に紛れて侵入。

主な特徴 オスは全長180~200mm。メスは全長120~180mmである。顔部の背色は鮮やかな緑色になることが多い。黒褐色から黄褐色まで変化する。

影響 在来昆虫類の捕食。

アフリカツメガエル

ヒバ科



考えられる侵入方法 ペットおよび実験用動物の遺棄。

主な特徴 体長は7~12cm。背腹方向に扁平な体型で、後足の水かきが発達している。まぶたと舌がない。

影響 在来水生動物への捕食圧。競合が生じる。

クリハリス 特定外来生物

リス科



考えられる侵入方法 宮崎県(霧島山系)からの侵入など。

主な特徴 オス成獣で頭頸長20~26cm。尾長17~20cmになるリス。背面は黒と黄土色毛が混じって生え、顔面は栗色である。

影響 樹皮剥離による樹木枯死など。在来リス類との競合。

カワヒバリガイ 特定外来生物

イガイ科



考えられる侵入方法 輸入シジミ類に紛れて侵入。バラスト水からの侵入のおそれもある。

主な特徴 最大殻長約40mmの固着性二枚貝で、殻は薄い。殻の内側には真珠光沢がある。

影響 通水障害。

ミズヒマワリ 特定外来生物

キク科



考えられる侵入方法 観賞用に導入された後、逸出。

主な特徴 多年生の抽水植物。ちぎれた茎は節から根を出し、成長が速く、短期間で大きな群落をつくる。

影響 在来水生植物との競合、通水障害。

ブラジルチドメグサ 特定外来生物

セリ科



考えられる侵入方法 観賞用に導入された後、逸出。

主な特徴 多年生の浮葉~抽水植物。茎が盛んに分枝し、地中または水中を広がり、駆除は難しい。

影響 繁殖し、在来水生生物の育成を妨げる。

ウチダザリガニ 特定外来生物

ザリガニ科



考えられる侵入方法 飼育個体の逸出。

主な特徴 体長は最大150mmになる淡水性ザリガニ。主に暗緑色でハサミの付け根に青白色の大きな斑点がある。

影響 在来水生生物の捕食。

オオハンゴンソウ 特定外来生物

キク科



考えられる侵入方法 観賞用に導入された後、逸出。

主な特徴 多年生草本。地下茎から茎を発生し、上部を枝別れする。抜き取っても残った地下部や地中に残った種子から再生する。

影響 在来の草本との競合。

ホソオチョウ

アゲハチョウ科



考えられる侵入方法 人為的に放されるおそれがある。

主な特徴 後翅後端に長い尾状突起を持つギフチョウの仲間。多化性で、形態に多型と変型がある。

影響 幼虫が同じウマノスズクサ科植物を食べるジャコウアゲハとの競合。

注) 定着予防種の侵入分布域は、現時点では繁殖集団として定着しているとは考えにくい。引き続き注視し、定着のおそれがある場合には迅速な対策が必要と思われる地域を示しています。また、トカラ列島及び奄美群島の詳細な島名につきましては、鹿児島県侵略的外来種カルテを参照してください。